

熊野古道・中辺路

2009.11.21 ~ 23

11月21日

平針	6:53		
		地下鉄	
鶴舞	7:10		
	7:20	JR中央線	
名古屋	7:27		
	7:37	のぞみ1号	
京都	8:11	駅弁を買う	
	8:36	オーシャンアロー5号	
紀伊田辺	11:06		
	12:00	明光バス	
滝尻	12:38		
	↓	1日目	3.8km
高原	15:10		

初日は紀伊田辺「銀ちろ駅前店」で昼食後、滝尻へ向かう。



宿泊は去年4月にオープンした霧の郷たかはら。

霧の郷たかはら

11月22日

高原	6:30		
	↓		
近露	10:26		
なかへち美術館前バス停	10:29		
		龍神バス	
小広峠バス停	10:40		
熊瀬川王子登口	10:45		
	↓	2日目	16.4km
近露	14:45		



そこには静かな風が流れていました。



心の琴線に触れる出会いを。

民宿ちかつゆ

11月23日

民宿ちかつゆ	6:45		
		タクシー	
熊瀬川王子登口	7:00		
	↓	3日目	19.5km
本宮大社	14:45		
	15:20	熊野交通バス	
権現前	16:09		
		買い物でフラフラ	
新宮	17:00		
	17:28		
		ライドビュー南紀8号	
名古屋	20:42		



11月21日

① 12:45 一ヶ月半振りの熊野古道館



② 13:00 滝尻王子



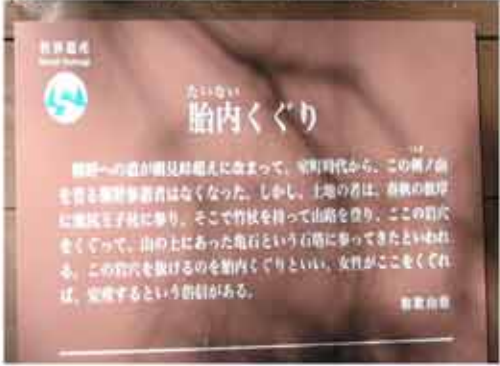
③ 13:05 いよいよ熊野の聖域に入る



④ 13:07 後から付いてきたはずなのに、コースを外れたマサキさん

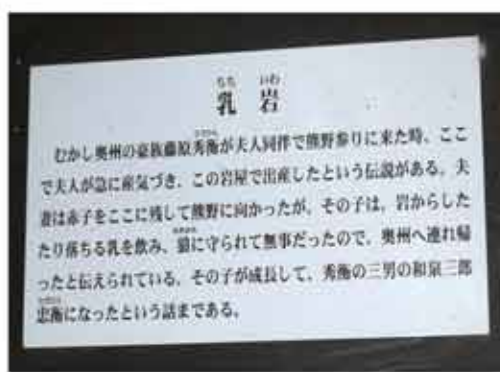


⑤ 13:15 胎内くぐり&乳岩



距離は短いが出口はザックが何とか押し出せる程の狭さ。

入口 出口



⑥ 13:25 不寝(ネズ)王子跡



⑦ 13:50 剣ノ山経塚跡



⑧ 14:00 展望台からの眺め



⑨ 14:35 針地藏尊



⑩ 15:00 高原熊野神社



⑪ 15:10 高原霧の郷休憩所



⑫ 15:40 霧の郷たかはら



フォアグラ



11月22日

天気予報では午後しだいに雨、降り出す前に少しでも進んでおくため、朝食をおにぎり弁当にしてもらい、昨夜もらっておいて、部屋で二つずつ朝食とした（一つは昼食用に持って行く）。AM6:30 出発。



① 6:45 庚申さん



② 7:15 大門王子跡



③ 7:30 何となく下り坂模様の空



④ 7:45 十丈（重点）王子跡



⑤ 8:00 小判地蔵



小判地蔵

この小判地蔵は、飢えと疲労のために、小判をくわえたまま、ここで倒れたという逸話を引いて、まつられたものである。地蔵には「道休禪定門」という戒名が彫りつけてあり、豊後国（大分県）有馬郡の人であったことがわかる。多分伊勢と熊野に参って紀三井寺へ向かう途中、嘉永七年（1854）七月十八日に亡くなり、その死を哀れんで、この地の愛洲氏が主になって、地蔵を建てたのである。

⑥ 8:05 悪四郎屋敷跡



悪四郎屋敷跡

十丈の悪四郎は伝説上の有名な人物で、力が強く、頼習にたけていたといわれる。悪四郎の「悪」は、悪者のことではなく、勇猛で強いというような意味である。江戸時代の『熊野道中記』の一書に十丈の項に「昔十丈四郎と云者住し処なり」とあり、それがここで見られている。背後の山が悪四郎山（782メートル）で、ここから約三十分で山頂へ登ることができる。



⑦ 8:25 一里塚跡（和歌山から25里） ⑧ 8:35 上多和茶屋跡



上多和茶屋跡

うわたわちやあと

平成12年11月22日撮影

この山上は、上多和と呼び、標高約600m。熊野道の通人交際は、ここに茶店もあったといわれ、大正期にも人家があって林中には、三尊万葉塔やお墓もある。

また、この山上には陰暦の11月23日の夜になれば、東の空に三体の月が現れるとの伝承があり、ここにあったしの儀行儀のもとに大勢集まり菓や酒の餅を供え、心静をくり、月の出を待ったという。三体月は、「熊野熊野熊野」の伝承の中にもみられる。

田辺市

⑨ 8:55 三体月伝説説明板

さんたいづきでんせつ

三体月伝説

今は昔、熊野三山を巡って野中道標の里に安をさせた一人の御旅者が、里人に「わしは11月23日の月の出たとき、高尾山の頂まで神変不可思議の法力を得た。村の衆も毎年その日時に高尾山に登って月の出を待むがよい。月は三体現れる。」

平朝平屋で村の庄屋を中心に若衆達が、陰暦の11月23日の夜、高尾山に登って月の出を待った。やがて、時刻は酉米。東伊勢の方から一体の月が風をのぞかせ、あつというまにその左右に二体の月が出た。三体月の伝説は、上多和、熊野山、熊山にもある。

田辺市

⑩ 9:00 逢坂峠の石碑



⑪ 9:15 大坂本王子跡



⑫ 9:40 道の駅「熊野古道中辺路」（昼食用に買い物）



⑬ 10:05 牛馬童子像（意外に小さかった）



ほしおりとうし ぎらうぼ とうし

箸折峠の牛馬童子

箸折峠のこの丘は、花山法皇が御経を理めた所と伝えられ、またお食事の際カヤの軸を折って箸にしたので、ここが箸折峠。カヤの軸の赤い部分に露がつたうのを見て、「これは血か露か」と尋ねられたので、この土地が近露という地名になったという。この宝篋印塔は鎌倉時代のもので推定され、県指定の文化財である。石仏の牛馬童子は、花山法皇の旅姿だということも言われ、その珍しいかたちと可憐な顔立ちで、近年有名になった。そばの石仏は役行者像である。

今日は小広王子まで歩きバスで近露に戻る予定だったが、近露から小広へ行くバスが有れば、その後時間を気にせずに歩けるし、後で雨の中バスを待つこともないと気づき、近露王子の前で時間を調べたところ、3分後に大社行きのバスが有ることがわかりバス停へ走る。大正解。

① 10:15 箸折峠からの下り



③ 11:05 小広王子跡



⑤ 11:55 中川王子跡



⑦ 12:25 安倍晴明とめ石



⑨ 12:40 とがの木茶屋



コダイ餅でおやつのはずが売り切れ。仕方なく、近くのベンチで休憩。

下から見ると直進に見える道標。要改善！

ここまでバック



⑩ 12:50 継桜王子



⑪ 13:15 比曾原王子跡



⑬ 14:00 野長瀬一族の墓



⑮ 14:45 近露王子跡



⑯ 14:50 「つたや」で招待券をもらったので、なかへち美術館へ。

⑫ 13:50頃 ついに雨。もう少しなのに。



⑭ 14:10 近露伝馬所跡横のつたやで休憩。



② 11:00 旧国道との分岐



④ 11:25 新高尾トノ礼付近でランチ



⑥ 12:10 コースを逸れ野中まで行ってしまい、あわてて戻ることに。



⑧ 12:35 秀衡桜



⑰ 16:20頃 民宿「ちかつゆ」



11月23日

近露から本宮方面始発のバスは7:30、本宮まで歩くにはちょっと時間的に心配なので、民宿のマスターとも相談し、朝食を6時にしてもらい、タクシーを呼んで出発を早め、本宮大社を目指すことに決定。



6:45 にタクシーを予約



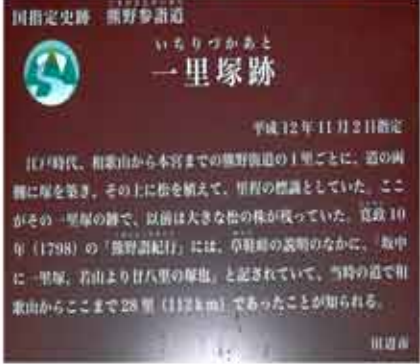
① 7:00 今日のコース出発



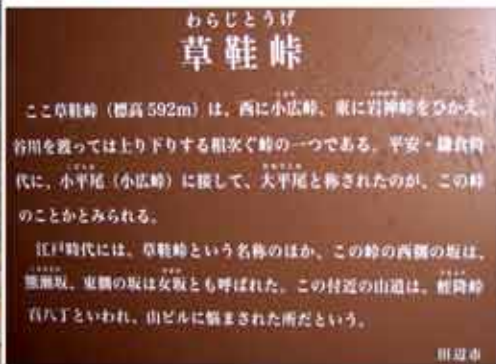
② 7:10 熊瀬川王子跡



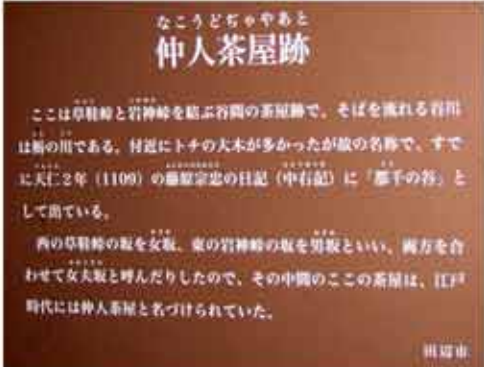
③ 7:15 一里塚跡 (和歌山から28里)



④ 7:30 草鞋峠



⑤ 7:50 仲人茶屋跡



⑥ 8:20 岩神王子跡



⑦ 9:00 おぎん地蔵



⑧ 快晴



⑩ 9:30 蛇形地蔵



⑪ 9:40 湯川王子 (湯川一族発祥の地)



⑫ 10:05 三越 (みこし) 峠



おぎん地蔵
この地蔵には「妙安自業信女、俗名おぎん」と刻まれ、文化十三年(1816)十月二十九日がおぎんの亡くなった日である。この女性は京都の芸者であったという。道湯川の豊之丞をしたってここまで来て、もうすぐ道湯川という所で、二人組の追いはぎに襲われ命まで奪われた。土地の者がその死を哀れんで、地蔵をたて、おぎん地蔵と呼ぶようになった。

⑨ 9:10 一里塚跡 (和歌山から29里)



蛇形地蔵
この村で出土した海産の化石が蛇の鱗のように見えることから「蛇形石」と名づけられ、それを背において祀られているこの地蔵尊は「蛇形の地蔵さん」とも呼ばれ、明治22年の大水害以前は旧岩神峠にあったという。言い伝えによれば、熊野を往來する人々がよくこの峠で「アル」という妖怪にとりつかれて倒れる遺體が相次いだため、寛政年代に岩神峠にこの地蔵尊を建てて旅人の遺體を防いだという。明治の大水害時には、岩神峠から不思議な音が聞こえ、村民は救出し遺體をまもられ、そこで地蔵尊をここに迎え、祀ったという。



① 11:15 赤城越分岐の公園でランチ



② 11:40 船玉神社



③ 11:45 猪鼻王子跡



世界遺産
World Heritage
いのはなおうじあと
猪鼻王子跡

関尾王子から本格的な山岳道となった熊野早詣道（中野路）は、十太崎、岩神峠を過ぎ、標高約500mの「越峠」を越えると、熊野川の流域に入る。

この猪鼻王子から先の道は、登り下りを繰り返しながら高院を上げ、明治22年（1888）の本宮まで熊野本宮大社が鎮座した熊野川の中州「大高原」へと続く。

「猪鼻王子」と稱人だ石碑は、享保八年（1723）に紀州藩が熊野詣の史蹟顕彰のために建てたもので、紀北東の緑尾川岩壁である。

熊野山荘

④ 12:05 発心門王子跡



世界遺産
World Heritage
ほっしんもんおうじあと
発心門王子跡

熊野川の中州に鎮座する熊野本宮まで約7kmの間にあるこの王子の名は、発心門すなわち「悟りの心を開く入り口」とされる大高原が通ったことに由来する。

天仁二年（1109）に参詣した貴族・藤原朝忠（1082～1141）は、まず門前で観音を祀り、発心門は大高原であり、参詣の人々必らずこの大高原をくぐることに、また、ほかに見ると感れを感じることを日記に書き残している。

また、建仁元年（1201）に和歌の調製として高島朝宗の御守に供した貴族・藤原朝忠（1082～1141）は、王子社の背後にあった高松山という名の山を参詣し、門前に感動と祈願を込めた御守と和歌を書き残している。

熊野十九王子の名物は地名や地形に基づくものが多いが、発心門王子の場合は別様に顕著する命の代表であり、この王子が果たした役割の大きさを表している。

熊野山荘

⑥ 12:45 水呑王子跡



世界遺産
World Heritage
みずのみおうじあと
水呑王子跡

貴族・藤原朝忠（1082～1141）の天仁二年（1109）の参詣日記には「内水飲王子」、「新王子」とある。

この「内水飲」とは、二日前に参詣した「水飲小屋」に対して、発心門の内すなわち本宮寄りであることを意味している。また、「新王子」とは文字通り新たに設けられた王子の意味であるが、これはほとんどの王子社が以前から祀られていたことを示している。

「水呑王子」と稱人だ石碑は、他の王子跡のものと同じく享保八年（1723）に紀州藩が熊野詣の史蹟顕彰のために建てたもので、紀北東の緑尾川岩壁である。

熊野山荘



⑦ 13:15 伏拝王子跡



世界遺産
World Heritage
ふしおがみおうじあと
伏拝王子跡

京都を出発した熊野参詣の人々は、およそ260km、歩行12日前後でこのあたりにたどり着いた。そして、熊野三山参拝の最終の目的地である本宮が、遙か東方の熊野川の中州に鎮座する光景を目の当たりにして、感動のあまり「伏して拜んだ」という。

また、この王子には、熊野本宮を目論みしてにわかには月の降りとなり、参拝を断念しようとした女流歌人・和歌式部を、熊野朝忠が快く受け入れたという伝説もある。

境内には和歌式部の供養塔と、一定の距離を示すために13世紀に建てられた石塔がある。

熊野山荘

⑧ 13:50 三軒茶屋跡



⑨ 14:15 ちょっとよりみち展望台



⑩ 14:40 祓戸王子跡



世界遺産
World Heritage
はらいどおうじあと
祓殿王子跡

熊野と和歌に心身に宿った力を継いで、日本第一の霊験をもって知られる熊野三山参詣の神域にすがるべく、祈願し、生命力を蘇らせることを目的とする熊野参詣では、清きやかいが重視された。

中でもこの王子での観音は、熊野本宮参詣の道に付くもので、これまでの道中での観音にも増して重要であった。

天仁二年（1109）に貴族・藤原朝忠（1082～1141）は、水呑王子に参拝したのち野路をたどり、観音を参詣してから本宮の参詣に入り、翌日の参拝に備えた。

また、およそ百年後の建仁元年（1201）に、和歌の調製として熊野詣に供奉した貴族・藤原朝忠（1082～1141）は、この王子近くの高松山で熊野十九王子の一行を待ち、本宮の神前に向かった。

熊野山荘

⑪ 14:45 本宮大社に到着



14:55 茶屋で休憩



15:20 熊野交通バスで帰路に



中辺路番号道標 (滝尻から本宮大社まで約 500m毎に 75 設置されている)

